

「川に学ぶ体験活動協議会」活動紹介

NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 事務局長 齊藤 隆

川に学ぶ体験活動協議会（略称 RAC）は「川の指導者」の育成や様々な活動を通じて川と人々との関係をより深いものにしていくことを目的として、平成 12 年 9 月に設立され、令和 2 年 8 月現在 100 団体によって構成されています。

今回も直近の活動報告及び今年度の取組予定についてご紹介致します。

【川に学ぶ体験活動全国大会（第 20 回）について】

今年は 9 月中旬に青森県三沢市の小川原湖で開催の予定をしていました。

小川原湖には大変珍しい「浮島」や、「丸まらないマリモ」の見られるところです。また東北地方最大の汽水湖であり、全国有数のシジミの漁場でもあります。

その小川原湖に隣接する旧根井小学校を拠点として、長年活動してきた「小川原湖自然楽校」代表の相馬孝さんが、今回の全国大会の実行委員長となって大会を開催する準備をしていました。しかしながら、新型コロナウイルスの影響により、来年度に開催することとなっています。

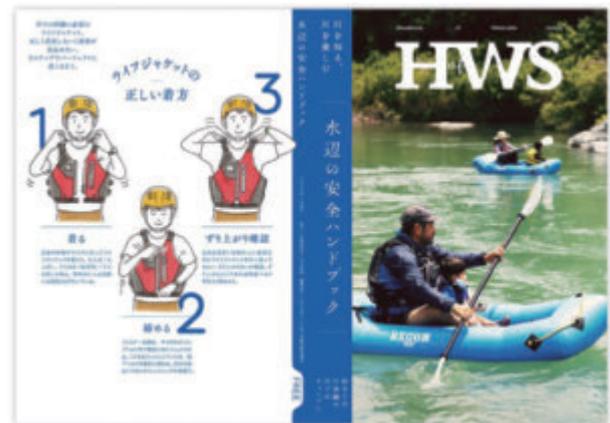
開催の暁には、是非青森県三沢市へお越しいただき、小川原湖を丸ごと堪能ください。

【川の水難事故を防ぐために】

RAC では川の指導者養成講座を実施し、その修了者である指導者は溺水から身を守るための方法を、全国各地で様々な場面で展開しています。今年の夏は例年以上に水難事故が多発したように感じます。8 月には多数のテレビ局から取材の依頼がありましあ。テレビ的には「川でおぼれそうになったら、どうすればいいのか」ということが一番の関心ごとになるようです。しかし、一番重要なのは、溺れそうになる状況とならないよう「事前に準備すること」に尽きます。もし溺水しそうな状況があるのであれば「ライフジャケットを着用する」こと、それも「正しく着用すること」が最も重要です。

7 月に河川財団より新しい「水辺の安全ハンドブック」が WEB で公開されました。当法人も監修しているこの冊子には、川における代表的な危険箇所だけでなく、全国各地の川遊びに適した場所も紹介されています。

水難事故ゼロにしつつも、安全に水辺の利用できるよう、水辺の安全利用方法の普及と、ライフジャケットの着用の普及促進に向けて、引き続き皆さま方のご協力をお願いします。



【熊本豪雨災害における救援活動について】

RAC では、熊本地震の際に避難所等で活躍する川の指導者を支援するために、「RAC 救援隊支援ネットワーク」という取り組みを展開しました。そして、川の指導者という顔の見える関係性が大きな力を発揮し、迅速な救援活動に資することが可能となりました。

そして、今年の 7 月に熊本県の球磨川で発生した水害においても、現地で活躍する川の指導者を応援するために、全国各地から多くの物資や支援金を頂きました。

この場をお借りしまして、現地で救援活動を行う方々に敬意を称するとともに、ご支援を頂きました全国各地の皆様には厚く御礼を申し上げます。

RAC では、これからも、様々な活動を通じ、川のリスクと危険回避の方法を普及しつつ、川での体験機会が増え、川と人とが共存できる「川に学ぶ社会」へ、一歩でも近づくことが出来れば幸いです。

＜NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会＞

東京都北区田端 1-11-1 勘五郎ビル 104
TEL.03-5832-9841 FAX.03-6893-2642
<http://www.rac.gr.jp>